

版画いろいろ

目黒区美術館コレクション展

特集展示
秋岡芳夫
全集 6
銅版画

英九くシグナルA > (部分) 1953年 エッチング・紙



銅版画
凹版

矢柳剛『愛の動物誌 第2部』より「P」(部分) 1973年 シルクスクリーン版・紙



シルクスクリーン
孔版

畔地権太郎<山の鳥>『山の呼ぶ声』より(部分) 1963年 木版・紙



凸版
木版画

小作青史『VARIATION A1』より「1」(部分) 1974年 リトグラフ・紙



平版
リトグラフ

目黒区美術館 2023.10.07(Saturday)–11.12(Sunday)

月曜休館 (ただし、10月9日[月祝]は開館、10日[火]は休館)
午前10時—午後6時(入館は午後5時30分まで)

Meguro Museum of Art, Tokyo

一般700(550)円、大高生・65歳以上550(400)円 中学生以下無料

メルマガ会員
募集中

*障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金

*目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂くと団体料金になります(他の割引と併用はできません)

主催：(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

(お問い合わせ) 目黒区美術館 〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36 Tel. 03-3714-1201 <https://www.mmat.jp>

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36 Tel. 03-3714-1201 <https://www.mmat.jp>



展覧会概要

版があって画ができる——版画作品は、凸版、凹版、平版、孔版に技法を大別できますが、制作方法は全く異なります。版木の凹凸からうまれる力強い表現の木版画、化学反応により、緻密な線の表現が可能な銅版画、描画した風合いがそのまま反映されるリトグラフ、均一に広がるインクのも物質感が特徴的なシルクスクリーン。それぞれの技法で、線や画面の表現が大きく変わります。

目黒区美術館では、銅版画、木版画、リトグラフなど、多様な技法で制作された、様々な作家による版画作品を収蔵しています。1点からなる作品、複数枚の連作で1つの作品とするもの、版画集など、形態も色々です。

この度は版種別に展示を構成し、技法の特徴、使用する道具による違いなどに着目し、当館オリジナル教材「画材と素材の引き出し博物館」も併せて展示しながら、当館コレクションを紹介いたします。

また、特集展示として「秋岡芳夫全集」を開催します。このシリーズ展は、2011（平成 23）年に開催した目黒ゆかりの工業デザイナー秋岡芳夫の回顧展「DOMA 秋岡芳夫展」後に開始しました。6 回目となる今回は、1950 年代に制作された銅版画を中心にその魅力に迫ります。

【出品予定作家】

青木野枝、池田満寿夫、柄澤齊、清原啓子、草間彌生、国吉康雄、駒井哲郎、中林忠良、長谷川潔、深沢幸雄、松原直子、山本鼎、淀井彩子、ほか



版木の凹凸からうまれる
力強い表現の木版画



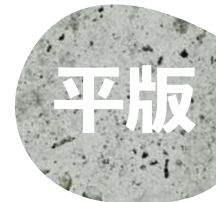
② 畦地梅太郎《山の鳥》『山の呼ぶ声』より
1963年/木版・紙
目黒区美術館蔵



凹版

化学反応により、緻密な
線の表現が可能な銅版画

① 瑛九《シグナル A》
1953年/エッチング・紙
目黒区美術館蔵



描画した風合いがそのまま
反映されるリトグラフ



④ 小作青史『VARIATION A』より「1」
1974年/リトグラフ・紙
目黒区美術館蔵



孔版

均一に広がるインクのも物質感が
特徴的なシルクスクリーン

③ 矢柳剛『愛の動物誌 第2部』より「P」
1973年/シルクスクリーン・紙
目黒区美術館蔵

特集展示
秋岡芳夫全集 6
銅版画



⑤ 秋岡芳夫《夜の楽士達》
1953年/メゾチント・紙
目黒区美術館蔵

開催情報

| | |
|-------|--|
| タイトル | 目黒区美術館コレクション展 秋岡芳夫全集 6 版画いろいろ + 銅版画 |
| 会 期 | 2023年10月7日(土) - 11月12日(日) |
| 会 場 | 目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36) |
| 開館時間 | 午前10時 - 午後6時 (入館は午後5時30分まで) |
| 休 館 日 | 月曜日 (ただし、10/9(月祝)は開館、10/10(火)は休館) |
| 観 覧 料 | 一般 700(550)円、大高生・65歳以上 550(400)円、中学生以下無料 ※障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金 ※目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂くと団体料金になります (他の割引と併用はできません) |
| 主 催 | 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館 |
| 交通機関 | JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線 「目黒」駅(西口)から徒歩10分 東急東横線・東京メトロ日比谷線 「中目黒」駅から徒歩20分 東急バス 「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分 |

関連催事

■版画の実験室

日時：10月17日(火)～27日(金) 13:00～16:00

場所：1階 ワークショップ室

申込不要(人数制限あり)、どなたでも(未就学児は保護者の方とご参加ください)

身近な材料(紙やクリアファイルなど)でどんな版画ができるかチャレンジ！版画作品を鑑賞したら、実際に自分で作ってさらに版画の世界を楽しみましょう！

■大人のための美術カフェ

日時：10月21日(土) 14:00～15:00

場所：1階 ワークショップ室 参加方法：当日先着順

本展の担当学芸員が、展覧会の見所などについて語ります。

※混雑時は人数を制限する場合があります。

※入場には当日有効の展覧会観覧券が必要です。

広報用写真

本リリース掲載の図版①～⑤を本展広報用写真としてご提供いたします。

ご希望の方は、申込用紙(4ページ目)の内容をご確認の上、必要事項をご記入いただき、FAXでお申込みいただくか、同内容を本展担当者宛メールにてお申し込みください。

本展の問合せ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸) 重田 / 広報担当(事務) 鈴木・丸

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328

e-mail: mmatoffice@mmat.jp <https://www.mmat.jp>

宛先：目黒区美術館「目黒区美術館コレクション展 版画いろいろ + 秋岡芳夫全集 6 銅版画」
担当者 宛

FAX : 03-3715-9328 E-mail : mmatoffice@mmat.jp

- 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の図版番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

| | | | |
|------------------|---|---|--|
| お申し込み日 | 年 月 日 | | |
| 御社名 | | | |
| ご担当者氏名 | | | |
| 住所 | 〒 | | |
| TEL | | FAX | |
| E-mail | | | |
| 掲示媒体名 (雑誌名など) | | | |
| メディアの形態 | 【紙媒体】 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 () 【電子媒体】 テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 () | | |
| 発行・放送予定日 | 年 月 日 | | |
| ご希望の画像 | 図版番号 ①～⑤のご希望の図版番号をご記入ください { } | 使用条件等 *写真画像への文字載せは不可です。 *原則、写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。 但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の 適宜調整を許可する場合があります。 *キャプション、クレジットは必ず明記してください。 | |
| 連絡欄 | | | |

- お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。
お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。
- 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。
必ずご確認くださいませますようお願いいたします。

【広報用画像について】

- ・画像データはメールにて送付いたします。
- ・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・使用後、データは破棄してください。
- ・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・画像への文字載せは不可です。
- ・画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。
- ・Webサイトは公開後にURLをお知らせください。
- ・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介して下さる媒体には、展覧会の招待券
(5組10名様)を读者プレゼント用に提供いたします。
ご希望の方は下記にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を [希望する ・ しない]

< 広報用画像に関する問い合わせ先 >

目黒区美術館
TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328
展覧会担当：(学芸) 重田
(広報・事務) 鈴木・丸